

選定の基本方針等について

1. 追加修正等のポイント

意義に「にぎわいづくり」という視点を追加する

- ・ 生きた建築ミュージアムそのものの目的の中で、「人の動き・流れを生み、まちの新たなにぎわいへ」という視点を明確にする。

「生きた」の定義をより明確化し、充実する

- ・ 建築物等の文化財的な価値だけではなく、その建築物等が建てられた時代(過去)から今(現在)まで、そして今後(将来)への変化・発展のプロセスや、そこから読み取れるもの(ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営み等)を重視する新しい取組みであることが伝わるようにする。(保存等を主眼とする従来制度等との違いの明確化)

「生きた建築」 = 過去・現在・未来を通して、生きるもの

過去	： 「生きた」	ある時代の象徴、生きた証である
現在	： 「生きている」	時代の痕跡を積み重ねながら、変化し、生き続けている
未来	： 「生きる、生かす」	次代に生かすべき、物語・魅力を持っている

選定の考え方を再整理する

- ・ まず、戦略に位置付けられた御堂筋及びその周辺エリアを中心に、大大阪から1960年代の民間建築を中心に選定し、シンボルイヤーに向けて、順次、拡充を検討する。
- ・ 選定全体を見ると、個々の物語がつながり、それ以外の建築等も含んで、時代を積み重ねてつくられてきた多様で豊かな都市の物語性へと広がっていくような構成とする。
- ・ 選定理由は明確にしておく。(未来に引き継ぐべき物語・魅力をわかりやすく伝える必要がある)。

全般的に事業主旨に沿った表現等となるよう文言を整理する

- ・ 「展示品」や「歴史的建築物」といった、従来制度等と同様の取組みという印象・誤解を与える表現を修正する。
- ・ 「再生」には、ハード面からの再生だけでなく、ソフト面での再生があることが読み取れるように改める。

2. 生きた建築ミュージアムについて

事業の位置付け

当事業は、都市魅力創造戦略(平成24年12月策定)における重点エリアのマネジメント<御堂筋フェスティバルモール化>の主要プロジェクトの1つに位置づけられたものである。

目的

御堂筋エリア(御堂筋及びその周辺)全体を1つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する「生きた建築」を通して、国内外の人を惹きつけるクオリティの高いにぎわいへとつながる大阪の新しい魅力を創造・発信することを目的としている。

「生きた建築」とは

具体的には、『ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等』を「生きた建築」という新しい概念で捉え、その再生・活用を促進していく。

生きた建築ミュージアムの実現

再生・活用を促進していくとともに、「生きた建築」の建築的な魅力に加えて、その固有の物語を発展させ、次の時代へと継承していくとともに、それぞれの物語をつなぎあわせることで見えてくる時代の流れや多様で豊かな都市の物語性を大阪の新しい魅力として創造・発信し、「生きた建築ミュージアム」の実現をめざす。

3. 選定の基本方針等

1) 選定の視点

‘生きた建築’の存在の周知

選定により、個々の建築物等の存在を浮かび上がらせることで、‘生きた建築’という新しい概念を広く周知する。

‘生きた建築’を通した大阪の都市魅力の創造・発信

選定により、‘生きた建築’それぞれが持つ物語を新たな魅力として発信するとともに、選定全体を通して、時代の流れや多様で豊かな都市の物語性を見せることで、大阪の新しい都市魅力を創造・発信する。

‘生きた建築’の魅力の継承・発展

選定により、所有者をはじめ、その建築物等に関わる多くの人々に、その魅力を認識していただくことで、建築物等に対する愛着や意識の向上を図り、その再生・活用を促進し、‘生きた建築’としての魅力を継承・発展させる。

2) 選定の要件 ~ 指針に定める内容、今年度の方針等 ~

‘生きた建築’としての魅力を持つものであること

都市魅力の創造・発信に寄与するエリアに存在すること

今年度は、戦略の重点エリアの1つである御堂筋及びその周辺（船場・中之島等）エリアを中心に選定し、順次、拡大も検討していく。

選定全体から時代の流れ等が見えてくるような構成となること

年代や様式等を限定せず、全体を捉えたとき、時代の流れやそれぞれのつながり、大阪の都市としての発展の経過等が意識できるものとする。

今年度は、一般的にわかりやすく人気の高い「大大阪時代」から、近年注目されはじめている「戦後高度成長期(1960年代)」を中心とし、順次、その前後も視野に入れた選定を検討していく。(重要文化財等は対象外)

発信力がある(選定効果が高いものである)こと

選定の意義から見て、より効果の高いと思われるものを選ぶ。(‘生きた建築’の概念がよくわかる、新しい魅力の創造・発信につながる語りたくなる物語がある、今後の継承・発展、再生・活用の促進が期待できる、期待される等)